

音楽科学習指導案

I 題材 ようすをおもいうかべて②

II 考察

1 題材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

曲想と音色や速度などの表れ方との関わりについての理解

曲想に合った表現をするために必要な技能

②思考力，判断力，表現力等

聴き取ったり感じ取ったりして音楽を捉え，様子を思い浮かべながら，歌唱や器楽を工夫したり，音楽を味わって聴いたりする力

③学びに向かう力，人間性等

感性豊かに様子を思い浮かべながら音楽に親しむ態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(1)ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもつこと。

イ 曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。

ウ(イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能

(2)ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いをもつこと。

イ(イ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり

ウ(イ) 音色に気を付けて，旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

B鑑賞(1)イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。

(3) 題材の価値

本題材は，曲想を感じ取りながら，曲全体を味わって聴いたり，様子や気持ちを想像して歌ったり演奏したりする学習である。その価値は以下のとおりである。

様子を思い浮かべながら曲を聴いたり表現したりすることは，曲のよさや面白さを捉え，情感豊かに表現する上で大切である。感性を働かせて音楽の雰囲気を感じ取り，その雰囲気を醸し出す理由を探っていく中で，音楽のよさや面白さと音楽の構造との関わりを理解することができ，音楽の構造を生かした表現をすることにつながる。

『あのね，のねずみは』は歌詞の中に3種類の動物やその鳴き声が出てくる楽しい雰囲気の曲である。3匹それぞれの性格の違いから声の音色を考え，歌い方を変えて歌うのに適している。

『卵の殻をつけたひなどりのバレエ』は，卵から孵ったばかりのひなどりが，ちょこちょこと走り回るような楽しい雰囲気の曲である。鳥の鳴き声のような楽器の音色だけでなく，速さの変

化によって、ひなどりの動き回る様子を想像することができ、速度も曲想を醸し出す要素の一つであることに気付くことができる。

『小ぎつね』は、歌詞から小ぎつねの様子や気持ちを想像したり、1番から3番の間で季節の変化を感じ取ったりすることのできる曲である。小ぎつねの様子を想像して歌いながら、イメージと音楽表現のつながりに気付くことができる。鍵盤ハーモニカの演奏でも、音色や速度などの工夫の仕方によって曲想の違いが生まれることを実感することができる。

登場人物の気持ちや様子に合った表現の仕方を工夫し身に付けていくことで、様々な曲の様子を思い浮かべながら歌や楽器で表情豊かに表現したり、味わって鑑賞したりできるようになる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「様子を思いうかべて」で、曲想を感じ取り、リズムを生かしたり、強弱を工夫したりしながら、発音に気を付けてのびのびとした声で歌う学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、1年「ようすをおもいうかべて」において、場面の様子を思い浮かべながら聴いたり、歌い方や鍵盤ハーモニカの演奏の仕方を工夫して音楽表現をしたりしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 曲想から感じ取れる場面の様子や音色との関わりに気付いてきている。このような子どもたちが、曲想や登場人物の気持ちや様子や歌詞、音色や速度などとの関わりに気付けるように、登場人物ごとの性格や雰囲気、様子などと、音楽を形づくっている要素を黒板にまとめる。

場面の様子を思い浮かべながら歌ったり、鍵盤ハーモニカや簡易打楽器を演奏したりできるようになってきている。このような子どもたちが、自分の声や楽器の音色に気を付けて歌ったり鍵盤ハーモニカを演奏したりできるように、ペアや班、学級全体など、一緒に歌ったり演奏したりする人数を変えながら繰り返し表現する機会を設定する。

② 場面の様子を思い浮かべながら聴いたり、歌い方や鍵盤ハーモニカの演奏の仕方、打楽器の組み合わせ方を工夫したりしてきている。このような子どもたちが、曲想と歌詞の表す様子や、音色や速度などとの関わりを考え、歌い方や演奏の仕方について思いをもったり、曲や演奏のよさや面白さを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりすることができるように、音楽や歌詞に合わせて体を動かしながら聴いたり歌ったりする活動を設定する。

③ 歌詞の内容に関心をもって、場面の様子を思い浮かべながら聴いたり音楽表現をしたりしようとしてきている。このような子どもたちが、曲想と歌詞の表す様子や気持ちとの関わりに興味をもち、聴いたり演奏したりする学習に進んで取り組むことができるように、歌い方や演奏の仕方を変えて歌ったり演奏したりして聴き比べる時間を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

1 ねらい 歌詞の内容から、小ぎつねの気持ちや季節の移り変わりを想像し、歌詞に合わせて体を動かしながら歌うことを通して、小ぎつねの様子に合った音色や速度などの歌い方を工夫することができる。

2 準備 拡大歌詞 拡大楽譜 学習プリント

3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 番はおしゃれをして楽しそうな感じがしたよ。寒くなるにつれて、さびしそうな感じがしたな。 『あのね、のねずみは』では、登場人物の性格に合った声の音色を工夫して歌ったよ。今度は、小ぎつねの気持ちに合った声の音色を工夫して歌うとよいのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小ぎつねの様子や気持ちを想像しながら聴くという本時の見通しをもてるように、「こぎつね」の範唱を聴く時間を設定し、それぞれの季節の歌詞から感じ取った印象を問いかける。 ○『あのね、のねずみは』で工夫したことを生かして様子に合う歌い方を工夫できるように、課題「様子を思いうかべて歌うにはどうしたらよいだろう」とその答えを提示し、『小ぎつね』で活用できそうなことを問いかける。(ア)
<p>めあて「1～3 番の小ぎつねの様子を思いうかべながら音色や速度を工夫して歌おう」 「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿 歌詞に合った小ぎつねの様子を体の動きや言葉で表したり、その様子に合った音色や速度の工夫を考えて、言葉や歌で伝え合ったりしている。</p>	
<p>2 場面の様子を想像しながら聴いたり歌ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 番の小ぎつねを歌ってみたら、草の実をつぶしたり、かんざし挿したり楽しい気持ちがしたよ。 「草の実つぶしてお化粧したり」を嬉しそうに明るく歌っていたから、ぼくも嬉しそうにお化粧したよ。1 番は明るい声で歌うとよさそうだね。 3 番は寒いし、外に出られなくて悲しい感じがするな。3 番をゆっくりした速度にすると、悲しそうな感じを表せるのではないかな。歌ってみようよ。 2 番の小ぎつねのがっかりした感じを表すために、ゆっくり歌った班があったよ。2 番から速度を遅くするのも残念な気持ちが伝わっていいな。僕たちも、同じように少しゆっくりして歌ってみようよ。 <p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様子を思い浮かべて、音色や速度を変えたと、思いに合った表現をできて面白いな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○季節ごとの小ぎつねの気持ちを想像できるように、歌う役と、小ぎつねの様子を体の動きで表す役に 2 人ずつ分かれて、繰り返し歌うよう促す。(イ) ○季節ごとの小ぎつねの様子や気持ちに合った歌い方の工夫の手がかりを得られるように、歌ったり体を動かしたりした友達と、お互いの良いところや工夫したところを伝え合うよう助言する。(イ) ○自分の思いに合った季節ごとの小ぎつねの様子や気持ちに合った歌い方を考えられるように、4 人組の班に分かれて歌い方を試行する時間を設定し、イメージに合う音色や速度について助言する。 <div data-bbox="738 1467 1399 1664" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">歌詞の内容から、小ぎつねの気持ちや季節の移り変わりを想像し、音色や速度などを変えて歌っている。 <表現・学習プリント②></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○小ぎつねの気持ちと歌い方の工夫とのつながりに気付けるように、工夫を共有する時間を設定し、友達のイメージしたことと歌い方の工夫を問いかける。 ○様子を思い浮かべながら歌ったことによる表現の高まりに気付けるように、学級を半分に分けて聴き合い、よいところを伝え合う時間を設定し、思いに合わせて音色や速度を変えて歌えたことを称賛する。

指導と評価の計画（全5時間）

目標	曲想を感じ取りながら、曲全体を味わって聴いたり、様子や気持ちを想像して歌ったり演奏したりする。				
評価 規準	<p>(①知識及び技能)曲想や登場人物の気持ちや様子と歌詞の表す様子、音色や速度などとの関わりに気付いている。 自分の声や楽器の音色に気を付けて表現する技能を身に付けている。</p> <p>(②思考力、判断力、表現力等)曲想と歌詞の表す様子、音色や速度などとの関わりを考え、歌い方や演奏の仕方について思いをもったり、曲や演奏のよさや面白さを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。</p> <p>(③主体的学習の取組態度)曲想と歌詞の表す様子や気持ちとの関わりに興味をもち、聴いたり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。</p>				
教材	<p>ア…あのね、のねずみは 春畑セロリ 作詞・作曲 ハ長調 4分の4拍子 イ…卵の殻をつけたひなどりのバレエ ムゾルグスキー 作曲 ヘ長調 4分の2拍子 ウ…小ぎつね 勝 承夫 訳詞 ドイツ民謡 ハ長調 4分の2拍子</p>				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ 追求する	1	ア	○「あのね、のねずみは」を、歌詞の表す様子を想像しながら歌い、『様子を思いうかべよう』という題材のめあてをつかむ。	○曲想や登場人物の様子と歌詞や音色との関わりに気付けるように、課題「様子を思いうかべて歌うにはどうしたらよいだろう」を基に、動物ごとの性格や様子と、様子を表す歌い方を整理して黒板にまとめる。(ア)	◇歌詞の表す情景や気持ちが伝わるような歌い方に興味・関心をもち、歌詞に合わせて自分の歌声を変えて歌っている。 <学習プリント・発言①②③>
	1	イ	○「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を、曲の表す様子を思い浮かべながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴く。	○音色だけでなく速度が生み出す曲の面白さを感じ取れるように、音楽に合わせて体を動かしながら聴く時間を設定する。	◇曲に合わせて体を動かしながら、音色や速度などを聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さについて記述したり、発言したりしている。 <表現・学習プリント②>
	1	ウ	○「小ぎつね」を、歌詞の表す様子や気持ちを思い浮かべながら歌う。(本時)	○1～3番の小ぎつねの気持ちや周囲の様子の変化に気付けるように、歌詞に合わせて歌う役と体を動かす役に合わせて小ぎつねの様子を表現する活動を設定する。(イ)	◇歌詞の内容から、小ぎつねの気持ちや季節の移り変わりを想像し、音色や速度などを変えて歌っている。 <表現・学習プリント②>
1			○「小ぎつね」を、曲想に合った演奏の仕方です鍵盤ハーモニカを演奏する。	○1～3番の場面の違いを出して演奏できるように、課題「様子を思いうかべながら演奏するにはどうしたらよいだろう」を基に、小ぎつねの様子に合わせて、音色や速度を変えて弾き比べる時間を設定する。(ア)	◇小ぎつねの様子や気持ち、季節の移り変わりを想像し、タンギングの息の強さや速度を変えて鍵盤ハーモニカを演奏している。 <表現・学習プリント①>
まとめる	1	ア	○「あのね、のねずみは」や「小ぎつね」を、歌や鍵盤ハーモニカで演奏する。	○登場人物の様子などと表現の工夫とのつながりを実感できるように、登場人物のイメージと演奏を併せて発表する時間を設定する。	◇音色や強弱と、登場人物の様子や気持ち、曲想とのつながりについて発言したり記述したりしている。 <表現・学習プリント①②③>